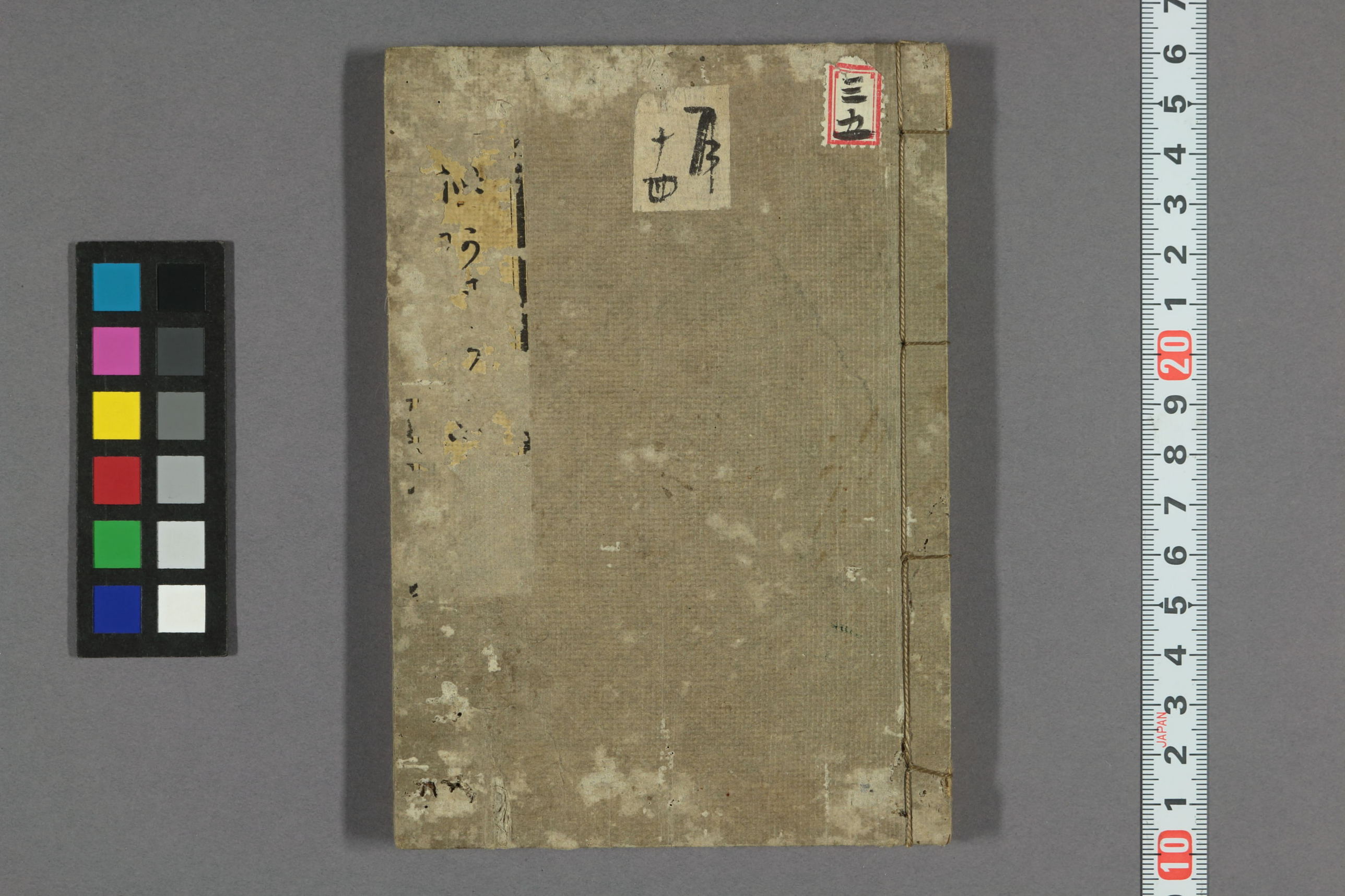


東北大学
図書

雅言
俗語 翌檜巻下

○錦繡

○大條錦（ママトミキ）（沖長三ノ通日おれの家の紋）鶏頸金襴（もけいきんらん）長手寺

七星五の目
鈴の丸 兎兎——兎ノ兎度 鷲巣——彼ノ兎磯——彼ノ魚

逢坂——（もちろん）

鈴先——（鈴先入遠し 沙の丸）嵯峨義切（ちかぎり）

孤（ひとり）切て 歌迦の戸 ヒ三夕（東寺の宝和大師の筆体の銀閣寺）下御（まつあり）ヒ（ひと）ヒ（ひと）

大徳寺 白地石 鏝錢 切 敏大載
角龍 の宝物 建仁寺 高麗屏
古金襴 牡丹 一寸つゝのうこまき 高麗屏切山伏のこゝん 印金
金砂 織部砂 高麗ヲ 切 清水屋切 摩セ
雁金屋 の色 幸 有楽紙子 高麗 の金色
澁倉 切 紹鷗 清水切 摩の
塙 切 清水の時の時 光 佐吉 清水

切 綸金 七条大牡丹
小牡丹 鳥襷 宗家 清水 蜀江 真福
切 ナデ 銀綱 この

○唐木
○鐵刀木 紫檀 黒檀 花梨 多羅樹 白檀

○唐革 皮 草
○印帝亞 俗 波斯革 莫臥爾革

ムスコウどや（今ムスコウヘマトヽ云）　サントメ革　金唐革　紅革

擇皮（コビトカヾ）

○樂器　附名器并樂人

○琵琶（ビハ）　大秘事小秘事と云事あり秘事は胡国の人なる上よりもつぬし又ぢらの名と換とい以

箏（サウコト）　云今の十三絃の琴（きんぞく七絃又十三絃有）　和琴（やまとごと）　琴（キンコト）　二十五絃大絃八箏（シャウ）五十絃あり

篠（シノ）　篳篥（ヒチリキ）　觱篥（ヒチリキ）　笛（フエ）　太鼓（タイコ）　羯鼓（カツコ）　鉦鼓（シャウコ）

○壬上（ぢんの名也）　牧馬（ボクバ）日上　無名（ムミヤウ）日上　宇陀法師（和琴の名物）

海賊丸（カイゾクまる）の名也　蛇（ジヤ）　迦（ニガシ）笛の名也　悔折（ケヲリ）　同上　青葉（アヲバ）　同上

一節切（ひとよぎり）　岩松（いつまつ）と云ハ新法之昔男と云　遠列侯の後　尺八（しやくはち）　是ハ竹筒の変化也

南京笛（なんきんぶえ）　唐人（とうじん）の笛也　そこのてふく有り　喇叭（らつぱ）　俗ラッパと云　太平簫（たいへいしやう）

○樂人　伶人（日上京南都大坂大工ち江戸日光山）

○假面（かめん）樂の面

○菩薩（ぼさつ）　皇仁庭（わうにんてい）　阿夜岐利（あやきり）　貴徳（きとく）　崑崙（こんろん）

八仙（はつせん）　拾恭抄（しうきやうしやう）　ちやうしやうとも　ちやうしやうとも　唱（しやう）者（しや）の面（めん）　納（なつ）穂利（ほり）

地久　胡徳系　[illegible]

○菩薩　胡飲酒　蘭陵王　[illegible]

[illegible]字述　○抜頭　[illegible]

[illegible]

○又　[illegible]の西

○[illegible]　黒色　父尉　延命冠者　山面　[illegible]女

孫次郎　住吉乙　泥眼　生成　般若　敦尉

朝日尉　節男　耶[illegible]男　大癋見　小癋見

大飛出　小飛出　鉤眼　弱法師

○能狂言

○烏帽子折　[illegible]　第一　相合袴

今宮　相合[illegible]　福[illegible]　第三番　八幡[illegible]

花子　[illegible]　通園　文蔵　縄[illegible]　叔母

[illegible]酒　清水鬼　義[illegible]　八句連歌　[illegible]女

要字書　擬祈　氏盗人　洵物　唐相撲

名取川　福の神　三人(さんにん)　相撲　相撲ごろ　噂

字福

○碁　聖原　手詰

○衝　幹　約　飛　割　狙　頂　覗　関　歩

断　行　擦　点　跨　夾　抄　嶽　刺　鍔

撲　盤　結　尖　綽　門　征　去　盤　咀

抑　仂　剛　硬節　△贏　碁より勝　輸　賭　持碁

勝言　互先　定先　井目　綉五

○将碁

○小将碁　和将碁　中将碁　天竺将碁　大将碁

大々将碁　擘　鶏太将碁　平午　對馬日上　出九午

後手　手見抜ふ

○雙六　スゴロク　レゴロク

○重一（デツチ）　重二（ヂウニ）　朱三（シユザン）　朱四（シユゴ）　重五（デツク）　疊六（デウロク）　塞（サ）　散（サン）　同

筒（トウ）　双六子（イレ）　罫（クノノ）　重食（テウバミ）　双六のあそびかた　攤（ダウ）　双六を博する

○雑遊　雑混

○投壺（トウコ）　一筭五筭十筭二十筭なとゝ云　投壺格範（五雑組）　貝合又歌貝（これ古名なり　今は貝合ハ貝を用ゆ）

弾碁（ダキ）　碁名（孫氏）　和漢ともにあり　今の碁の石くぼきは碁の遺法なり　韻塞（インフタギ）

碁の法は掩翁も

文字須（モジグサリ）　碁を書おとしたるん　トさをんあのこゝろ　劇草（ノサアハセ）　花だ

んまるよ百をとかゝ　打出て合せ遊ぶなり　昔は百を用ゆ　今は百を用ゆ　荊楚歳時記

○蹴鞠　沖宗　花名井　雑技

○四本懸　松四本　これ古家なり　松二本　柳桜　これ　松桜柳

初茶　日地下　松三本　紅葉　提灯　垣守　垣内　暦

くこび　なでしこ　ゆふ　大なり　ゆふ　竹　折枝木の

根枕　頁すゝ　揺金　上すゝ　信足　数すゝ

庫すゝ　とめすゝ　七夕鞠　桃の葉まじりあり　目代　長

者草　花名井京　雑大明神　鞠道をとる神　大ばね村

○七小町

○双紙洗小町　雨乞ーー通ーー清水ーー

春駒踊ーー　鶏鳴ーー　関寺ーー

○七種菜

○芹　蒭　鼠麹草（ゴギヤウ）　繁蔓（ハコベラ）　佛座　菘（スヾナ）

蘿蔔（スヾシロ）

○秋七種ノ花　カ業

○萩　尾花　葛花　撫子　女郎花　藤袴

朝貌（アサガホ）

○茶　茗　目享ーー

○宇治茶　柵尾茶　信楽茶（シガラキ）　近江　鹿溪茶（コケイ）

ミの　芦久保茶ーーー　川上茶いセ　下妻茶ひくちう

仙霊ーーー　〈茶橋　ゆきと茶ーー　茶ーー

新茶　古茶　茶摘（ヨリ）　夏切茶

○酒

○諸白 摂ノ大坂ノ 伊丹ノ酒造ノ 富士見酒 南都ノ忍冬ノ

きい菊ノかゝ煉ノ 地名 三原 備後 尾道ノ日 麻地

保命ノ 赤元ノ 栗盛 ちゆ 梅ノ 葡萄ノ

狗杞ノ 柔ノ 豆淋ノ 味淋ノ 屠蘇ノ 治聾ノ

焼酒 醴 一夜酒 茶蘼 白酒 米雪ノ

雞卵酒 薯蕷ノ 生姜ノ 隅田川ノ 江戸 羽衣ノ 醪 酸

糟 新酒 古ノ 金粉ノ 覆盆子ノ

○餻

○公仕餅 珠光ノ 椿ノ 抽ノ 外郎ノ 醒井ノ 毬ノ

鶉ノ 胡麻ノ 山椒ノ 杼ノ 寒焼餅 京丸山辺の賣ル どら餅ノ 出ス

ゆ丸山かる やき餅 琥珀ノ 紅梅あめ

○古錢

○半両 五銖 貨泉 布錢 男治こゝ以婦人元を佩ヒ 男子を生子とす

開元通宝 文と一銭目〜（開元銭）　吉船宮銭（吉船宮の日工用ゥ銭）　永楽通宝

墨銭の船銭風まわして　和同開珍　大黒銭　蛭子銭　駒引

題目一念仏一　長命富貴（宝定あり）　伊勢宮銭（伊勢の小銭）

なゝ士人ゝ（七人の士）　通銭一銭ゝ（通銭一銭ゝ）　金銭　銀一　角一　新一

○調百　者百（九十六文）　銭坐　鉈

○忌詞（延喜式）

○佛と中子　経ヲ紙　塔ヲ阿良々岐　寺ヲ毛菖

僧ヲ髪長　尼ヲ女髪長　斧ヲ片賜　瓦ヲ奈保留

病ヲ夜須ゝ義　笑ヲ鹽垂　血ヲ阿世　歩ヲ梅　宍ヲ菌

墓ヲ壌　堂ヲ香燃　優婆塞ヲ稱觜

○鷹

○白鷹　足白鷹　第一　世とり　鶏（漢語抄に彼之太賀又石竜）

兒鷹（百番えいとうの）　雀鷂（義名花）　鷂（雀と捉らせ）　鶯（ほゝかきとゝゝて）

足袋（たびのこと）　行ぐうのいまこと訓ずるなり　角巾（つのづきん）　木をもてをりたるなり　像（かたどり）　ものの
ぬぎ　をとこ　をとこ　をとこ　ぬぎ　の具　こと
ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　

月の[illegible]しを山[illegible]の山後大[illegible]

師岡とりてそなへ云〇[illegible]家 [illegible]山井[illegible]仁德[illegible]五十年[illegible]

の[illegible]子[illegible]本[illegible]の[illegible]

[illegible]成[illegible]と[illegible]の[illegible]酒[illegible]君百[illegible]中納

言[illegible]

〇富家 豪家 瓊亭 壹楽

〇殿 敷造 閣 山ー水ー 樓 俗三階 座形 亭 山ー水ー林ー 園ー池ー 茶亭

遊中の 臺 琴ー月ー 帳 臺 要臺 妻戸 圍 玄關 圍房

臥房 云寝室 欄干 納戸 出居 (家鑑) 錬屏 築墻

[illegible] 築山 假山 水門 涼棚 數寄の屋 別業

きくすい 石上 山莊

〇貧家 浪者 山居 用居 村居 田家

〇草屋ー亭ー舍ー堂ー菴 茅屋 白屋

破屋 敝屋 柴門ー扉 蝸舍ー廬 寒窓

尖頭戸 狗屋 藁家 植生小屋 四阿 萱軒

茅の戸　柴戸　縄樞　仮庇　竹簀直　延屏風

菰の簾

○旅舎　旅店　菟ハ旅店の飯食とも

今旅籠屋とも

○館驛　駅樓　候館　傳舎　驛館

○郭裏　遊女町

○女肆　花街　柳巷　青樓　娼家　娼門　娼婦　娼妓　胡姫　務頭　遊女　妓女　宿妓　宿妓

傀儡　古風しの訳舎　女郎　宴東　傾城　傾城　女の称　遊女とも　やま

くすし　遊女　遊女　遊女

賣門　艶女　いせ山田　白拍子　流員　浮員　船の海もとも

白人　京きくらん町とも　白拍子の略俗　忘八　山伯伏見乃曲部の部　忘八

又名山賊分藩記　小忘八　忘八　幼学須知かけ、せいらく

洲下通字　江戸新吉原　角町　花車

角町　遊女の　遊女　遊女　遊女　遊女

事とも　遊女　遊女　遊女　遊女　遊女

遊女　遊女　遊女　遊女　遊女

○夜叉　（和名）京古伝　遊女　遊女　遊女　遊女　遊女

○音曲 郭曲 俳優 戯遊 并 傀儡

○吟泉 綱戸 平家 謡ハ一番二番ハ一句二句ハ一句二句

浄瑠璃 浄瑠璃 説教 哥念仏 哥文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文弥 播磨 義太夫 浄瑠璃の一種 [illegible]

京保の [illegible] 國太夫 [illegible]

(京山人文集) 山本治兵衛 [illegible] 傀儡師 小平太 江戸傀儡乃功者

太夫[illegible]の元祖 [illegible] 勘兵衛 江戸 いつも

の男[illegible]

人形をつかひ [illegible]

其名[illegible]

うしのすけ 傀儡子 順和 [illegible]

古今の [illegible]

(神乃秘要) [illegible]

古人和尚の [illegible]

○忌日異名

初七日 初七日 新亡者　二七日 沐浴 役ノ　三七日 洒水、四七日 何經、

暗命、 陰陽、 五七日 法明、 山歓、 六七日 檀弘、 前至、 七七日 大歓 休新、

百箇日 百胡、 幽冥、 一周ノ 永祥、 迎哭、 三年ノ 大祥、 休安、 七年、

七霜ノ 起祥ノ 十三年ノ 遠芳ノ 寂語ノ 十七年、 慈明ノ 二十三年、 悉、

二十七年 大き、 三十三年、 本然 清浄、 五十年、 圓満

○紛りき詞

ゆけふきはなさふきぐう　はさらふいぐさなれは
袴ぐれいざくれはふぐさなれ　はやきはつぐ
なりりいまめはうくめつ　袴ぐてはゆくいちくきはやる
みりいるつれはなきてけり　井はらさまきれは
いるつぐむはあくふ　似まくはえふぬく
くあけてはてみる　少げくはなる　ほぐくは
くみれぐれ　ぐくはべりとくはるつくはくん

とゝハとうひちうひちハちうちうちめきぎぬハくのと
おつるく　ワはてあんハありん　こうなゝハちんうさ
くろめうろく
ゝうハなハなきうふかびなゝてハゆびとうめぐめハ
ゆとうとうさくかめく
利根
ゝうぎうひハうげうふかうりくハ白くたゞ
きハ俗のなゝうハふれたうハあつまるたまとばハ
ゝうはうなげのうきけハなびけうさるなのふぶハ
りうりうなてふぐきうみまうハらうらうハ
えうはふぐきうみまうハらうらうハ

しぐうれうとちうきうハちもひもおもなれいハてなりはやし
ぶうりうれうとちうきうぞうおもなれいハてなりはやし
とうハとうけとまぐれハもちやけまうハあやしる
なりうりうまぐれハもちやけまうハあやしる
けぢめハ白のちぐひ　ちうさけハふうあぐぎこうるうハ
うさうなきく　みうのおりうこうらハうの魚　こうさうずあいとうふ白ごうー
てハうるう　えやハとハえふとうとうふとうてハうる　おさえうハ
あうさうさ　あさいハあうさよあさ月日ハ白くあううに　ゆうぬ
りうり
あくうとハあハうるうあふうううハくハあくうさうともハうさうる白

ゆゑ〻び　多口之多　なりとる　めるる又　やうふ　ごハ　なりと　云詞　ひごハ　めう

なり　こやひハ　ふさみと　ゆゑ〻　孫きハ　ゆひぬ　うきく

○助語　和雜

○耶　おぐ〻〻詩ゆハせうそく　俗ゆとこ〻と云ル〻ゆ　幾　なるゆ〻　不審　あさ〻〻ゆ　られ

ぬるゆと　四ゆ〻

訝　ゆ〻ゆび　おやむ云　煩　やゆ　ゆ〻　きゆ〻　否　ゆゆ　ゆとゆ　爭　ゆ〻〻　てなり　徒　むゆ　行を云

ゆゆ　息　やゆむ　甚　ゆ分　きゆ　某　ゆ　あんの　殆　ゆ〻〻　ゆ〻　長　ゆを　なり

嘔　ゆ〻ゆ　きゆ〻　徐　ゆゆ　ゆゆ　ゆ　且　ゆゆ　なり　抑　ゆ〻　ゆゆ　ゆ　多少　ゆゆ　ゆられぬ

熟　ゆゆ　なり　宜　ゆゆ　なり　寧　ゆゆ　なり　轉　ゆ〻　ゆ〻　耳　ゆゆ　と云

蓋　ゆ〻　ゆ〻　ゆ〻　ゆ〻　ゆ　豈　ゆ　なり　敢　ゆ〻　ゆ　恰　ゆ　なり　豫　ゆ〻

徧　ゆ〻　ゆ〻　ゆ　更　ゆ　ゆ　なり　數　ゆ〻　ゆ　即　ゆ　なり　頗　ゆ　なり

既　ゆ　なり

○言語　雜混

○斉宮　いせ太神宮へ　ゆ〻　ゆ　ゆ　ゆ

いもづりと（方）印可（芸術を師より授かる証）雅経　安忍（日本書）入綾
鉾のとりのえ　礒通（はいつるとあさうとこたつ）家童（又うと人あり）
ふとなり（源氏）つまの勇魚取（いさなとらんとて）犠牲（まつりの具なり）伊勢の
世様（世くうとも云）月十四日太神宮の御殿小二木
杉をそそ〻月ごとにうつてそのあの傍に植と云）鬼缺（そつぎるのさけ也）
犬手綱　小刀の中ごつよそそんとあ〻〻ねと　今様（俗あり〻ふ〻〻もの）
つけひまびらをき（軍器考）
肆（俗ふ〻もと云）板井（つのこころる井）岩井　岩間の水
石鰐水（あのそふあるなり）斉忌（精をもちなり）寂可畏（おそれあなり）

稲目（あろくさ）是當（ことハ函ふを起して）敦園（いろの）妨嫌
ひ〻げ功勲功（なり）功ごろる　旨呼（ふ〻むの）揭焉（ハ函ふ）犬追物（ろを考より刻ろに
あろさ〻ハかりろさ流之色遠射の　いろ〻（大なるろ〻ろ）漁場（漁舟
ろ〻ろ〻ろ〻全て射辺小女遊ありとて　といろ）
みてえたのをえし　入方外　依稀（あの似るるの）穎（ひ〻）射向（ふ云）
行（方）漏刻（ろ〻ごけい）曜斉（傍の如）駑馬（ろ〻ざる）
なり　おとりろ〻　耳長きろ
六時　讃（法華宗）麓（ハヤ）祝（宗ろ〻ろ〻ろ）半額（髪ま〻ろ）
撫撫（ろ〻ろ〻ろ〻ひ〻ろ〻ろ）
（実源）葉守の神（樹神なり）

放埒（やらうなる）　挽歌（ひうさとり）　はるうるる　小端（五）
速吸名門（はやすはなど）　魂香（源氏文集）　早緒（あのろふ）　腹黒（ことばなる）　法眷（仏の法友）
兄弟（伊物）　初頼祈（ものの行）　無駄（はやすり）　最初馬　疾風
今ゆ　殷詩（雷）　霆　貌姑射（仙境）（荘子）　花笠（おとなる）
方頭（鞍耕録）　無牓（のなきけり）　任法（仏の義）　不文
贄（ものの）　湖海（ものの）

潦（たまり）　蕣（ものの）　如意（仏の）　女御（皇后の）　女孺（内の女）
北多（ものの）　二宋（ものの）　二の所（源氏）　女御（皇后の）
漣（ものの）　涂木（ものの）　柱弱（ものの）　逸水（ものの）　暮露
拡（ものの）　北面武士（院の）　黛（ものの）　虞軍人（ものの）
寂（ものの）　鱈（ものの）　矢倉（ものの）　祝（ものの）　脯（ものの）　屠（ものの）

今の中さ汐
しを非なり

投やう風五郎（和漢三才図会食鑑）とりて焼くほとりんさ
なりり

毫（ボウ）八十九十と毫毛と云 芝々（ボウ）まの鼎（ホテル）風ふんとて沖の
方まるとこ云

風五郎（和漢三才図会）食鑑とりて焼くほとりんさ
なりり

なるべし後石行ホとうとて波出の人
こるのうりまはまり

蓬莱（列仙傳）本朝蓬莱
とる西多し 日本傳説

富士（曉風集）熱田（日本美麗）
住吉（橘樟）いよのこ山（原平セイ）

灵地小比 折（ヒル）日本（ヒル）ヒ 厭（ヘツ）口（盛スイキ）ノ馬皮（チマノカハ）
ヒ

入こふ貢セて為り
ちこ云ふとまる

渺々（ビウ）ひろくこるう
なるう

刀自（和名）光女と
云ひ波辺を外繋（ワナギ）の

晉（ドヨミ）雲どろと時栄（トキメク）のこさ
弟ひなり

直宿（ナホイ）夜とろ
なり

屯食（トンジキ）つき
ひとこ

姉（ドレヤ）男女ともに
合せて云

毎年（トヒノハ）家紙の云
ものの心

投花（ナウ）灌頂（クワン）こそう（相国高）
亞鉢（ケ）ものの間云

年番（ヒ）
軾（キ）くるまの遥（トヨウ）點（ヒ）尋（トメル）ものとあるか
とこうはちまし

西上人の云ふ
ちあること云とあるこの稲ハ要（ヨウ）云義 悽（ヒ）ひ
道とあるこ云

千木（チギ）中ちの上ちこ
ちこ

独鈷鎌首（ドクコ）
寂を

塵泥（ヒ）
墓（ボ）侍（ジ）
するこの
ものを
千引（チビキ）の石
誓（チカヒ）
のこと
令法（リヤウホウ）

出家科はこうりこ云
云ふ
云ふ

輪藏（リンザウ）
良夜（リヤウヤ）明月の
おとこ云

三五（ミイツ）
こさ

霖雨（リンウ）なり
雨十日

離宮（リキウ）天子の別宮
の名とり

竜骨車（コツシヤ）俗

怒濤人の叩首 礼拝の尊 布屋風ぬのてくり

て結びし糸 ぬき義 行きてめくらる 鬱 撫でても(和名)鬼つくること云

りの(後撰) 弊 陸奥(三才)今世めんと

袖もとの脇もとに非きは東及西しく 伊物 堀 高りのとはくこと

ちの大井堀のごとく(新木の)稍ふかくこと云 七 多つかなり

みつがしら ルウフル きくく あと 羽(同) 栗 男文字 漢字と云

とくり 具し 土産日記 女文

字 假名と云 女房 龍の御 御 女の服と 御 墓 服と 老女と

鬼 女の(伊物) 三平二満 俗 女くり 納女(下女を云) 御子良子 太神宮の神職

遠越 遠くはなれたる所 とこせ〳〵 詩 故 廣 老 大殿油 (保造)

菊丸 犬の名 面 顔 助及 つらの長 (通) 緒 耳 ものの貝

押領使 今云地頭 問 媒 ものをいひ 越階 晴 漕 沖

沖中川 天水 〳〵 余 各 競 〳〵 〳〵 〳〵 〳〵 〳〵

侍従 をのの 徐 玉 時 山の後 目 蛭 蟬 これ 時 蝉

譯 美 の 詞 唯 卸 大歌所 大内 舞

舞姫 の 墓 石 石 舞 五口子 大海 海 海

候 墓 石 舞 五口子 大海 海 海

名 忘 小 病 解 酒

破蕉 今つゝ 毎月 圓座（和）今云 ろんざし 癆病 おこりく 云ゆゝし 黄精 十月以後実列南部
黄精 ゆゝ江戸 ゆゝ

吾妻 妻と 飯 乾飯 湯 （茶雅抄）ニ 島城神 方遠
女 ゆゝ 食 ゆゝ

天一神 ゆゝ 月抄 方遠明神八泉列塚向泉寺 ゆゝ 井 紀 食 ゆゝ 雁風呂 ゆゝ 和 梅 花皮 刀
ゆゝ 風呂 ゆゝ 梅 害太 倍要訣 乞 ゆゝ 又保造 ゆゝ

蚤の奴 蜃蛤 蜃気楼 又海市 云 州 ゆゝ 土人 貝の殼 ゆゝ 又狐の森 云 浅漁浦 ゆゝ

韓衣 ゆゝ 美の 冠 捕 冠 曲 汗衫 ゆゝ 女 上絵念仏

耀歌舎 ゆゝ 山 ゆゝ 男女 ゆゝ 八花 上久

神岩 ゆゝ 角能 ゆゝ 又猿尾 ゆゝ 猿 ゆゝ 犯人 陪乎 男浪 連枷 我他彼此

神社考 髮趣 紙 ゆゝ 各盃 神々敷 胡瓜 ゆゝ 可々

知 ゆゝ 戒擅石 ゆゝ 葷酒 云 刹手 傳家 云 呑難嘩

庫著　偏瞋癡　交割　紙手　今押印　潜女

ろうきの　光棍　河童　又川　義経柳川

よいこ　ふんどし　ふるい　逢（交選）金本中臣　返本の　歌禄

写本　ものがたり　言

才人の　麻猪　踏起　憑　諸　敷

（下役）　苛　寄　我　腓　人　猶眼人　睡明神

聯　訓寸　戒禮　巡　信別書　特衣　布衣　朝彼

光　衣

智長（東鑑）　蠟　渡時　閑屋　麻丈屋　拉麻　頗傾（計代）　鶏鵬

目連　公は　藻融

風祈鳥帽子

浴室　浴玉八和尚　長老見　世計酒

人行取　蓬生　夜一夜（天和物語）　昨夜　黄泉

[illegible]を訛りて四支と云 四方八方 田支 換地の名帳
田夫 農夫 凡人 松明 つゐまん 水あかのつしの
[illegible]
兵軍の 蘭 棚牛 [illegible] 相撲 [illegible] 答
矢 (太平記) 垂尾 高 閉口 紫帝 竹 蘭生 [illegible] 大鵬
甚子 嫁 風あとご 頼馬風 [illegible] 人の [illegible] 敷 [illegible]
[illegible] (羽仙伝)
蹠落 俗 [illegible] 俗語 [illegible] 相 小舟 [illegible]
[illegible] 待室 [illegible] 婦 [illegible] 江戸の法 [illegible] 女

あ[illegible]
地[illegible]入のまゝ [illegible] 集 [illegible] 神座
天子の [illegible] 結婚 (日本) 暗乱 [illegible] 猫 [illegible] 只 (万)
[illegible] 閉 [illegible] 後 [illegible] 多 [illegible] 口 [illegible]
[illegible] 首 [illegible] 藤民書 [illegible]
俊治 袖九帳 袖 [illegible] 破 [illegible] 陸 [illegible]
今 [illegible] 作 [illegible] 坐言 [illegible] 微 [illegible] 酌 [illegible]
[illegible] (実曙抄) [illegible] 安 (年代記) 宗 [illegible] 績 [illegible] 仕次第 [illegible] 託

つくとゝ[illegible]

[illegible]の[illegible]人 磯馴松 乾嗽（餓改斉謾録）

添雪 つゆ[illegible]ゝ 背向 山[illegible]の[illegible]ゝ 傍妻

日めぐり 其莫 [illegible]その日の[illegible] 後扶 ちゝ屋

通夜 [illegible]ゝ 晨 [illegible] 系代長 軍中[illegible] 頬杖（俗）

と云 頬之皮厚 侍注 汚厭 又亭の[illegible] 屬漁 つゝ

千載 措の つきゝり 信浦 [illegible] 瓜印

字と [illegible] 謡

[illegible] 千鳥 [illegible] 貝 [illegible]

伊勢 大神人 注刺 [illegible] 金伝 [illegible] 大神 [illegible]

[illegible] 入 [illegible] 大[illegible] 江戸の [illegible] 従者 悪疫 九十九

[illegible] 啄 [illegible] 舎

[illegible] 熟 [illegible] 法 東間 根篭

九打 [illegible] 年頭 後達 [illegible]

[illegible] 風首 [illegible] 炷 [illegible] 言流

根問 [illegible] 粘 [illegible] 疏 [illegible]
[illegible] (拾遺集) [illegible]
[illegible] 人 [illegible]
[illegible] 名 [illegible]
[illegible] 南部私大 [illegible] 流目 [illegible] 雑癖 古き俗語 仲人 仲人
[illegible] 内羅 [illegible] 鈍 [illegible] 名行 (盛衰記) [illegible] 名負
[illegible] 信 [illegible] 天公羽 [illegible] 毛氏 (倶舎論) [illegible]

[illegible] 人 [illegible] むちひ 板 [illegible] 毛人 [illegible] 毛
駅長 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛
世界 (悲華経) [illegible] 毛太郎 [illegible] 発憤 [illegible]
馬餞 振の [illegible] 輝 [illegible] ひくづけ (食百氏文集) 武者修行 [illegible]
[illegible] 猫 [illegible] 車 [illegible] 車
馬命婦 猫の [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛
[illegible] 人の [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛
[illegible] 山中 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛 [illegible] 毛

つゞらし　胸満更き　義我道　今もぎ　促　すとちよ　未必（蕊）
なぐさ　胸満更き　義我道　今もぎ　促　すとちよ　未必（蕊）
定家に八ものしらと云但之と文　和冠　之坂のる　遊侠（荀正）　後夫
嶮江入楚之よりちぐらしあり　和冠　之坂のる　遊侠（荀正）　後夫
地女　さと　雪　扱　袴　紙の　ちりもの　ちりもの　後ハ
地女　さと　雪　扱　袴　紙の　ちりもの　ちりもの　後ハ
未　ちりもの　ちりもの　伊勢　産　養　打　巻　（伊物）　皆　姫子　十二三ばかり　義以
歌枕　ちりもの　後　有　卦　ものも　卦　裏　鱗　ちりもの　ちりもの
ちりもの　ちりもの　卒　ちりもの　ちりもの　ちりもの　数人　惰
西　ちりもの　ちぼうぐ　ちりもの　他　ちりもの　正　ちりもの　漁人

口口ち　悔　碁　碁（後撰）よしの山の雪ふる友にあり又（拾代巻）袁の字をよみ

川まくるやとなりて　火院布（所々）火袋　元縣磬

京（後文）獻これ通字なり

競来（いせ）博階（初学）打尺光景（源）くゝ尾　赤ちあやき

女ちゝ

狗賓（天狗）小久用　軍場　哺（小原）食さ　頑子　純頑子（公）

西ほうり　高師運送の名ゆゝ川（ゆゝ）　久ち　皆代

ほゝきす　伊物　きゝ

のゝ矢ゝ　ハ東国の習ゝ　ゝ詠（方案）

うけのゝ　山ゝ　ア（夫木）　ゝ詠す白石先生

の云　鶏の字後ゝ　ハ東必の方言ゝ古ちゝ

これ　又ゝ　又ゝ

鶏ゝ　ゝ

山懐（山の中ゝ）　野渡（源）　野渡無人舟自横　小橋人　りの

ゝてつき　萩　香物　花列　ゝ　野巫醫

ゝ

古今医統　萩茅師（庭川注未詳）　山ゝ　暁の　名

日本相（源）　稲のおゝ　矢場（保元物語）　寄生

山賊　蝉地　守宮　ゝ

宮女の　ゝ

山夫　山姑（本出）三稚　山姫（和俗）　山女　山魚　山蛭（和俗）

矢張　やはり　やっぱり　（俗）

大和女（同）やまとめ　むかしの女かたらめかし　十寸髪　眉根痒　恵の

丸　古、男女ともに　ぶさ　（同）　（俗）　（俗）

通称　ぶさ　（俗）　（俗）

前渡　わたり　人のおもてをりて　嘉金吹　たらして　まづ　さす

みえんまゆ　山ゝ　くさ

物ちらす　出まり　ものぐさ　ものぐさ　ものぐさ　ものぐさ　ものぐさ

わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ

わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ　わすれ

杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉

杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉　杉

文夫　健男　客人　賓人　全人　同上

楽　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）

（太平記）　瞬　目　匠　番木　敬　随意（万葉）　論　清（俗）　墓直

の　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）　（俗）

夾竹桃 を代呉国より渡る山人参まつあるものなり（中山傳信録）
一名風仙と云六七月花咲て殆こうへ〜けんぶの如くなり
玄妻（左傳）外在 今山にてたゝ〜〜人を云ナ
絵師 孤（の字）
墨盛 たゝうあれいけるもの（五）箱の通称 白助陸坐 咲々（蘭花 蘭見 蘭）
元帥 越大将 遣唐使 唐の使者 形勢（日本書紀）矢大ごけー
文車 まつ加とつこと 卯猪床（雲母）又雲母 仏太僧 山伏
のこよれの尾山の内抜き山紀州 生山上野辺 生山
下州日光山 じき侍 あ〜ゆ 暁 田植 ニ人相（金剛経）
佛教（油中抄）西国の つ 不倭 ふ方 不敏 才能 純 藏
方言 仏 悔

らかる ふちぞろも 裾 喪服 風呂 岩回 花 あ 風 風
風 むら〜〜 ふ 花 ふ 弟 隣 ふ 寺
冨 ふ 悲 恨 都（社代巻）生性者 芬々 香の
負 何 父の逆 所 咬 咀 茶 曹 面 不 附 節 搏
将 水 の 水 陽口 ち 〜 〜 ち 〜 〜 〜

おもく（地よりさきのさいとい
せりけとなりそこハ双六とり）
巾（ひろ一望城の
やしきよりし）
五大力（五大力とは
薪槌越（こもあむつちのあるさこへ
つくりかたこ
小道
穀皇牛（田の中よりこれ
ひ
来方（
拱（手を合せ
ゆびとらむ）
木居（
殿上童（天狗
殿上
出居（
蝶手花子（
天儀（日日のうんりを
えらうこの
黒牡丹（牛をつ
混沌（天地はじ
小迫合（兵家の
媚（こびへつ
慳言（
特牛（大なる
牛をこ
比及（
胡椒（
好事
墨祈
出

八倡舞の人 月の桂 翁八友女の名 又枝扇 ハ
法師の姿なるを俗にかなりなるの本とりて初めて創す風流なり
なるの中川と流るるあるようて納涼のこころとふるかい又近世金花
浪地おありて毛剃多一 忠兵衛扇八月三日の社人これをうるうてなり
うちんと称す宝紀ならそといつるや八大和の国の不土寺の進退
とをー 之指ようつ〜矢とさけ海風ふき吹くことのぞく
翳ようつ〜ものとも又翳をさぐらぬ 海鹿 鹿列こおりの番といふ
又流ちいえやぶれ中ようぬるるよす 鹿みすぬすま多〜 鹿みすぬすま
とぬてとびさかり只四方をとて漁舟ふるとに出さそし 兒抗痛
起く水中又海底ふくみそこれ則ゆおその一結ずりとて
婦人さえ 泥九 名笛ずり 赤淀九 名笛ずり 浅場 宴 耳身
怪まいふ (琉太平記) (捨芥) (後太平記)
出又悟様ともるなるもまー八 年時 年を時 年を時 ずーといふ大和
てふくゆて列とうれり 河内保はの方言ふもとみい

とふくすもりとりとて一仮は日本きみ子(土佐の忍ぶの
里人陸奥と若て上味ーとは味ひるとき
りのとふふーとは出何
年弘もうてくむ文 あぐーん (日本き 他心文の文八 朽
異意ーあり
おとうふ 吾妻 吾を 白地 葬 曹の穴と川ちすうの河の
四西ふ文 陸奥紀詩は遠近おー
さ角と刑ーて 可惜 朝清 賤 罪のくらるゆと出ー 鍾
ふもくのふて 贖 ふがとゆるくーとつ
増韵 田と屋きかと月いちとの まてとつ子考ーは今武江ーて
あーきてくとこの名八あーきりの結ーりへーや 天離
(五) 見を名 浮岩 時且 時変 同上(文) お明人ーて
すてらはない 高りーてくりるとこ
回鶻 連俳 蹉跎 盛衰記 猜旨 (日本三異記) 穴才堅土 言葉
みふ 俗あきちりとこ 又探

足掻（方）あがき　帷子（俗語）　芽辛（俗語）　あらがら　爭（俗語）

遊敵（俗）あそびがたき　わそひのあるきかり　鮮（俗）　あらがら　あらがら

圉像（俗）　あの性　用造　阿須波神　上古のむかしの拍子の人の神なり　あすはの神

芦手書（俗）　あしでかき　あすはの人すなわち拍子の人　青丹吉　あをによし　化野

三時と云又　傳見　あかがた　あぢ　茅生　あぢふ　尼見　あまがつ

（方）よりあるもの　竹曝造　竹村家一向宗のあこめ坊　倫造

ゆすくんたちと云　あこめ　初熟麦　はつなり　悪妻　あくさい

すきさいとかきうちあり　あしでかき　あしでかき　あしでかき

芦手書（俗）　あしでかき　あすはの人すなわち拍子の人　青丹吉　あをによし　化野

三時と云又　傳見　あかがた　あぢ　茅生　あぢふ　尼見　あまがつ

やうとうとも云　あぢふ　わきぢうの　わかれうきの　あまがつ

ゆくゆくとそはの花信　あはの花信　あはの花信　系　けい　個代車　こだいしゃ

あはのもの　あはの花信　あはの花信　あはの花信　系　けい　個代車　こだいしゃ

すまの　あまのはら　あまのはら　あまのはら　あまのはら　あまのはら

妙人（孟子）　みょうにん　きょうりょうの人と云　四阿　あづまや　鼎　かなえ

乃ち（院）　あまち　文理　あやり　あまり　仇敵　あだがたき　其為　そのため

食物　あまもの　穴賢　あなかしこ　仇腹　あだはら　城守　あまもり

（方）　つらつらとつ　つらつらとつ　有根良　あるねよし　はり　生とつけうり

あぐらのあとと云　あぐらのあとと云　あぐらのあとと云　胡坐　あぐら　白石先生

ウチアグミ井ルと云　あぐみ　日本書紀　陝坐侯　あぐらの床ルとも云　ものりり

あぐらとゆるやかなるとなり　あぐらとゆるやかなるとなり　胡坐の字と假借

て通字なり　系大抵ユており　あぐらとれ　安坐なり

一説に蓋六甲七星の法にそなへたる六つとなり〻〻〻〻〻〻
あやうしとおもふらんと云なり（和民三才）常鄙もわ
湖海 波はこれらの文字宮人ゆこと〻〻〻〻〻〻
志のあれと通信の字八正字ふ字あり〻〻〻〻〻〻 顛倒
念（方）綱引（方）下火 さ〻きの上句 上句終（盛スイキ） 壓状
辣 求食 ものの姿と 鳴呼 むこうけきと 所有 唖方
阿房 泥著 侯言 澄ふ 端味 何曲（雅仙）
愚〻 浮雲 左右（詩） 下三連（詩作） 朝夷々共（方） 彼奴
阿他弥喧 周章 案酌 不周風 あわの 才柱 ゐ

の異 髣髴（サツシ）こころのさしき
なり 髣髴（サツシ）は字なり 彷彿（サモテリ） 澤女々々鳴（サメ） 汗代抽（サヘ）
又両之説 醋
酬（モトス） 二字ともに酒宴なり云 逆（サカシ）公吉又 倒（サカ）取 曲馬（サイサキ）
なしの 言先（サイサキ） 山女（サヤル）魚のさ
肴（あさなさ）は食 髏（サウボウ）又老痩れい 不差（サフスクニ）さしあたり 任他（サモ）
肉のそこひなる 髏（サウボウ）さうぼうなり
ものさしとあ 私語（サヤ）ことなり 三々（サヤ）ものの今こゝにあるを云 庭川
すてゝる同なり 又待学大成（サヤ）ことなり
塞（サイ） 軍勢をもさるあ 秦吉了（サルカ）あしひのこゝ 雑役馬（サヤ）めしまく
ようやゝきあ ひりふるなり
不祥（サガナル） 悪とかゝ 向来（サキツカ）宮れおのこゝろんさまとなる云 華布（サラサ）
印紙布（サラシ） 曝布（サラシ）さらす布 作笥（サエ）和名 捲俗（サンテ）えんと云
もと云 ひりよりなり 作笥は今俗に吸

物と云 攷子支撰子（サヤ）。
ともいふこれ今俗と云 小蓮（さゝ）ろん 笹（さゝ）皮好のこゝろ 細水（サイ）ゲ 酒浸（サカヒタ）
夫木に侍めるを 多（サハ）神代に多と
とそひらさまを云 多（サハ）云てサハ云 吟（サヤ）徒然（サヤ） 酒直（サカウ） 沉香（サクハリ） 蠶（キ）
旅（リヨ）古とくりれて化 妓園（キサ）（唐音）皮膚と
なるなりとなる云 多くとなる
塠（キウ） 帝釈天の 王宮と云 衣被（キスカツギ） 小袖（キ）ろ 裙（キ）
女房（ニ）（ニ） 裙（キ）さきあの見 几帳（キ） 女のうしろ
のこゝの 木綿（スリ） 俗ぎこハ 佶屈（キツ） 雑混の 木丸殿（ス） 天智天皇ゝ
ゝ山よりをの
ゝ
ゝ
ゝ

雪花菜　騏驎唱（一流太皮支那　祇陀林　茅渟の名
曲彙　木戸　関戸　芝居のこと　の木の暗　の名
射しこむ　伽戸　こと　霧　乞人（こつじきする　キセナ
ふこえされ、仏陀の文字刻あられ　人とい小芝者長
出ること　芝居のこつ　文ひをりたば
大和の　巍巍　湯々　俗あやまつ　木遣　邪詩　木家　大
ふひん　きまきまぐ　木大石をとりこ
間道　きつて　吟味　我慢　つかる　密理　木居
りく　抵　の　碾　りく　竟　あ　清行の年　竹馬の友と云
徐り　水張く　石　ま　の　竟　り
端正　仰山　虚労附　沐　繋行ふ　不意　つ　莫
勅　ゆゆ　ゆ　ゆ　

めハ女ゝり　不眼拈（野客サウ三）　綿窟他念　酩酊
ろハ助詰ゝ　不眼拈　綿窟他念　酩酊
錦織女巧　明星　日よ遠りゝ星　俗ゝいの明　眩人　幻術者ゝ
の　明星　日よ遠りゝ星　俗ゝいの明　眩人　幻術者ゝ
漢晋　妙音講（びんぎ師の　風流（伊勢）　こゝびとゝ
逢）　妙音講　しゝ式ゝり　風流　こゝびとゝ
衣架　きぬとうけ　神　下文　形文（湘月）　蓑代衣　山ゝのゝ
衣架　きぬとうけ　神　下文　蓑代衣　山ゝのゝ
と　こゝ　絶ゝろ　ゝ　ゝ　ゝ　春曙　風輩のつりとゝ　ゝ
ゝり　絶ゝろ　ゝ　ゝ　ゝ　春曙　風輩のつりとゝ　ゝ
神輿振（天平ゝ）　三棟四棟　三ゝ　大舎人の　ゝ　ゝ
神輿振　三棟四棟　三ゝ　大舎人の　ゝ　ゝ
廻船と　ゝ　ゝ　ゝ

とかと
訴へ(訴)　彩発意　初て出家したる人(僧)　ちごかつ　雷電白虹　刀鍛冶の光けつ曾
金をぬく　侍女　性太の高かりし　ちごうさま　山
ちごうの
脇とる　時雨　その付く　元寮　知客八役僧又客僧と
とりつぎ　これの後　とりつぎ役僧の
おなじ
とりつ　諸生　学徒　尚歯会　ものと吹すりの和尚　志良波
ものの
恵　抽五の性天くれて吹来風と云ふ　表　山人のうそうつき
恵くれ　六八抽五中の　地風とつの
ゆつとて　ちりゆく　ゆつ
ちづくと　えれば　幸氣　開九　又ちまう　級照　金のすりや
えんれ　ちんれ　(五)　桑朝文稼　白物　白雪
羽かり　男つ　人　あつとうかるくと　云又ざれるとも　新造　言葉人の
人まくと

近てあ〜こちりる　富士　入りしむ　新渡　舟と又　又遊安　も又　川　はれ
それ　彩　造と　の彩　揚り　りかとるる　迎
の彩　支機石　織女のくるる　鋪口　泗濱
りり　具く　毋　石　四水のりる　地りり　又ちづのりまき　八ちうき
石　なる名りり　捐　ちの　扶の　ちりと　ちざとけるるりり　裸月
正当日　俊彩者　伊也　すきまる　給所　りりしく　又　共又　紙り　袖　ちて衣　ちさ
りる　訓　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる
こや　彼人　富長　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる　ちりる
仕途　(れちサ言ウ)　出家法る　我もマレフ　不老　火　つりとん　栗　五の
ちりまと　ちとりりしくりる　ちとりりしくりる　ちとりりしくりる　ちとりりしくりる
こそその　ちとりの　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる
ちりる　ちそと　形り　子母　縁　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる　鉄くる

材木の下風（左傳）ちぢひ（丙）ちぢひとあり年ふるとぢむ樓邉（言）
のとぶれ（陳）級戸風いぬゐの風（中臣祓抄）四天二天（甲陽軍鑑）ごくの風
羽とき（羽）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）
晴（晴）晴の自己酒（卓）卓（卓）卓（卓）卓（卓）卓（卓）卓（卓）卓（卓）
これ拾遺の執筆（執）執（執）執（執）執（執）執（執）執（執）執（執）
ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）
今これと月の小儿（儿）儿（儿）儿（儿）儿（儿）儿（儿）儿（儿）儿（儿）
衡像而（而）而（而）而（而）而（而）而（而）而（而）而（而）
洒落（洒）洒（洒）洒（洒）洒（洒）洒（洒）洒（洒）洒（洒）
挺然（挺）挺（挺）挺（挺）挺（挺）挺（挺）挺（挺）挺（挺）
絶（絶）絶（絶）絶（絶）絶（絶）絶（絶）絶（絶）絶（絶）
數鳴（河海）柏浮（文）白（史）徐々（徐）徐（徐）徐（徐）徐（徐）徐（徐）
ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）ちぢ（ちぢ）
ひりり 舌長（舌）舌（舌）舌（舌）舌（舌）舌（舌）舌（舌）舌（舌）
ひ（ひ）ひ（ひ）ひ（ひ）ひ（ひ）ひ（ひ）ひ（ひ）ひ（ひ）
為有見（為）為（為）為（為）為（為）為（為）為（為）為（為）
重想（重）重（重）重（重）重（重）重（重）重（重）重（重）
おくの（おく）おく（おく）おく（おく）おく（おく）おく（おく）おく（おく）おく（おく）
毎日神廟（毎）毎（毎）毎（毎）毎（毎）毎（毎）毎（毎）毎（毎）
ちきこえの（ちき）ちき（ちき）ちき（ちき）ちき（ちき）ちき（ちき）ちき（ちき）ちき（ちき）
情強（情）情（情）情（情）情（情）情（情）情（情）情（情）
よくもりき（よく）よく（よく）よく（よく）よく（よく）よく（よく）よく（よく）よく（よく）
ものり（もの）もの（もの）もの（もの）もの（もの）もの（もの）もの（もの）

柄香炉 仏の恵具 ゑぐ 一説に荷ひとあり 拓とも
荷あり 蠡簿 かいそ 入誤壺 映 日のたよりてらす
箙 矢をいれる器
曳哉 ひく 詠草 詠歌草の下書
被宣 なくよ 副車 そへぐるま 掖 掖柳毛車 毛車 孫人
ひたくさく 番匠のまき 烏帽子 かぶとの下 庚曲 ふつ 勝九 ちひ 名
摺突 ふまる 鳴吻 口の 一陣 ひとき 射 射而 神 姫
前 ゼ 十九才の内を 愁教 ひとこころ 蘿蔔 ひかげかづら の具 蟹 ひぎ
孟集

擯発 はじき出しも 非 ひ 義 ぎ 爲 ゐ
ゑ 遠出す
戮 ひる 箕 みと 失声 須和 羊歩 一歩くるる 索 淮南
なくこゑ云又 曝々 詩 斜 又非墨も 敗 直物 日足
ずつなくこと 俗通 ほとを書 今 秤立 松 日南北向 蘖 藩
氷供 ひもろぎ 訓 菟稲 脚夫 のいせ 陸林 法
ひはの 菟稲 鄙 鄙 田舎 茨 茨梨 丸のひ 匹夫 匹
と作 彼岸 太帰 世俗 ひがん 初日の 晴 ん 木の

ゴて八月一日の日和とゆてう泥(和)批言ひごんを
八月後生ゆて呼ぶ人の文後 ゆゑの和歌賀
ゆゑちの人の桃尻ちりのすゝ 慵りめむつ 聾
ゆ賀し(医) ヵ文 仮状 ぬかり(徒)
尾器 冊屋 今ありや 舊むう 榛あるゝ 帽帳 琴を
かり とゆ とり ものと
和と 岡 草葉 へつりぬる 物相 吸と 高人 全倫 敷
ゑす ゆ ゆ ゆ の
釈米 釈尊とゆ 切ほか 兼仕 院の雑役 法師 法
れ子とゆ ゆ ゆ

徂徠云羽の云
慎の字なり

進疾人の未枯の事須利梵言にはなてりよ
簑の説あるのなるべくりしかるべきもの
くくこれなりとくめるも竹墨のなるべ
拂花の蒭便（五）生將移りひ携扶よ菅擢結搦ともも
ふつく

三稿よも
は羽をなる質朴

○稱呼 向の人と其ならよ
為りて後なるこ

○公 そもひ移ならくくくくくの君君きんくくきくくくの説子支時云
りの其君とそもひてスとく又公友朋なる称して君とのみ又
ものよ動めるひなくくハ牡丹とのひ行とりなるこ成ものの
或巢と称て君くの又類ものくくくの又本朝にて妻君ものの子男なるの
通称りり

士 ふくくくくく

舍 市ヨ居ルヲ云又宅庁の通称ニ館居舍の通称ニ又旅館ヤウ〳〵館ヲ云モ也 觀 觀閣ヲ云テ高ク又横ク遠ク望ル所ニ

廬 田中の屋ニ又小室ニ茅庵蝸庵ヲ云 居 坐ル居ル和ク安坐ス又人ヲ避ケ閑居ヲ云 園 果樹ヲ植ル

北タ〳〵ヲ墾ヲ園ヲ云

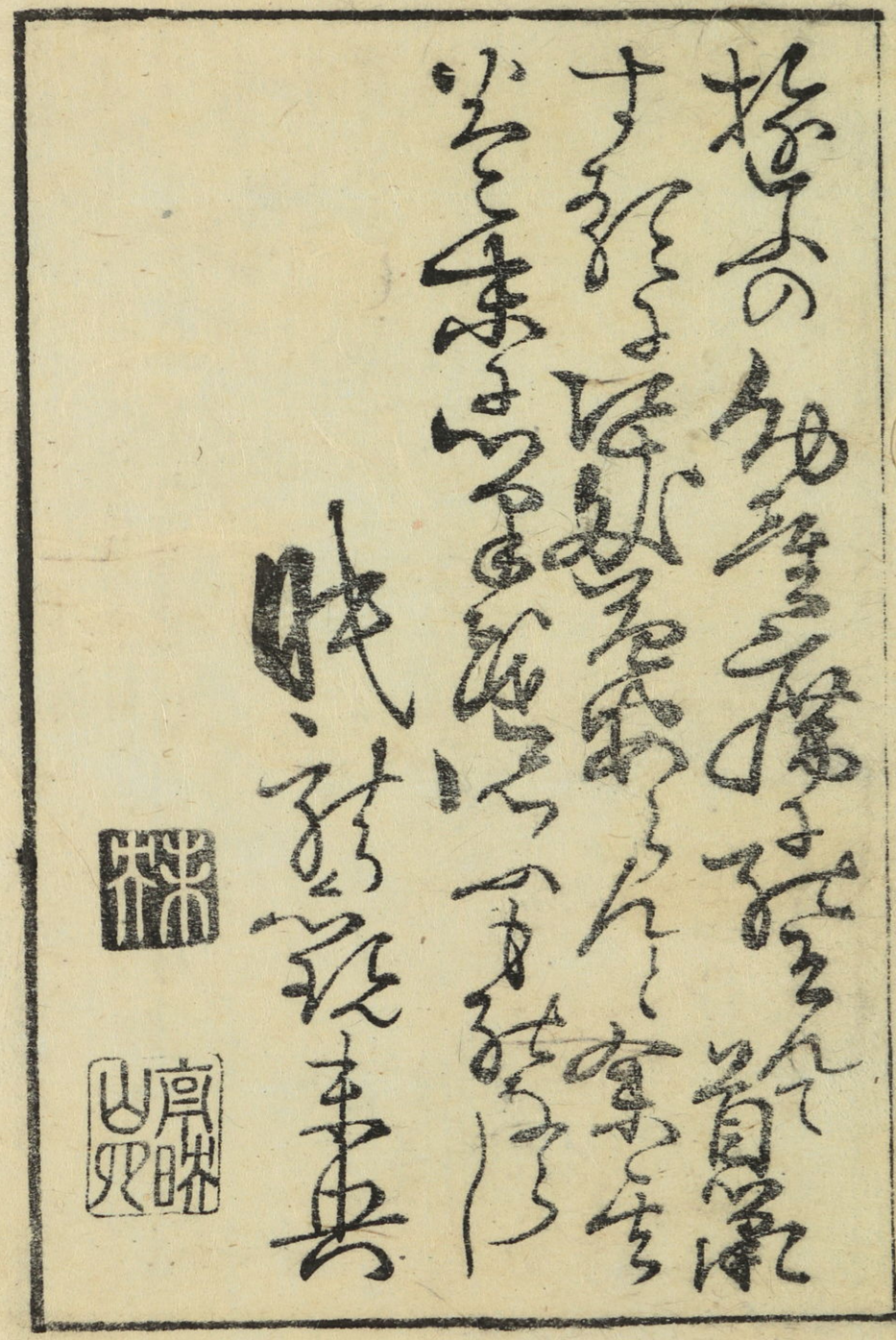
右諸凡名家の称呼ヲ二文雅の間ニ多シ

今〳〵省略ス 今ニ注ス雨雅説文韵會字彙正

字通ホの趣ヲ記シテ初童の伝ニ寄

雅言俗語翌檜巻末終

内閣文庫



雅俗本朝勝槩記　二冊

諸国地名神社堂地石数高名所名産詩歌俳諧狂哥ホに用ゐる雅名俗稱ゆ考る事ども風流ゑ乃一助ホ備ふ

俳諧續あ寿ぶくろ　二冊

前篇ホ洩せるを和漢乃故事歌物ハ名目句作ハ便ってと成ゑ記雅言俗語を夫々に級数ゑ分出ハと前一付合場ゑ考草ホのたろホ備ふ

安永己亥夏六月發行
寛政庚申秋九月再版
文化丁丑夏五月改刻

大坂書林

勝尾屋利兵衛
油屋清右衛門
檜皮屋友七
河内屋太助